

## かんしょ新品種「ミナミユタカ」について

小野敏忠・丸峯正吉・山川 理・広崎昭太・坂本 敏・井手義人  
(九州農業試験場)

ONO, T., MARUMINE, S., YAMAKAWA, O., HIROSAKI, S.,  
SAKAMOTO, S. and IDE, Y.

## A New Sweet Potato Cultivar "MINAMIYUTAKA"

来歴ならびに育成経過 昭和41年指宿試験地において、コガネセンガンを母、九州58号を父として交配採種を行ない、翌42年熊本県農業試験場かんしょ隔離ほ場に実生し、選抜を行なった。その後は九州農試に引きつぎ、選抜を重ねた。昭和46年には系統適応性検定試験および特性検定試験を委託し、地域性ならびに特性を検定した。昭和47年以後九州68号の系統名で各県に配布し、地方適否を検討した。昭和50年5月かんしょ農林34号として登録、ミナミユタカと命名された。本品種は父本の九州58号に近縁野生種の *Ipomoea rifida* が用いられており、野生種利用の系統では、最初の登録品種である。

形態的特性 茎は紫色を帯びた緑色で太い。草型は匍匐型で頂葉は紫褐色を帯び、葉色は濃緑である。葉形は波状歯鼻形で葉は大きい。いもは紡錘形で大きさは一般に中型であるが、栽培法によっては大型となる。条溝・裂開が少なく、外観は極めてよい。皮色は黄褐または淡黄褐で、肉色は淡黄である。

生態的特性 萌芽性はよい方であるが、冷床での萌芽揃いがやや悪い。つるは伸長型で繁茂し、つるの収量は多い。1株当り着生個数は多い。いも収量は農林2号よりかなり多く、宮崎、鹿児島県の暖地では、とくに能力を発揮し、コガネセンガンよりも多収を示す。晩植栽培や比較的冷涼なところでは充分能力を発揮できない傾向がある。でん粉歩留りは農林2号より高く、コガネセンガンより僅かに低い。

でん粉の白度はコガネセンガンにやや劣り、でん粉の粒径は同程度である。むしいも、やさいもの食味はよい。黒斑病抵抗性は中位、ネコブ・ネグサレ両センチュウには強い。いもの耐冷性が高く、貯蔵性はコガネセンガンよりはるかにすぐれている。

用途・適地および奨励品種採用県 工業原料用のほかに食味、外観がよいもので、やさいも用、食品加工用にもよく、飼料用にも適する。地域的には南九州の暖地に好適し、ネコブ、ネグサレ両センチュウに強いので、該センチュウ多発地帯の栽培に適する。宮崎県および鹿児島県において、昭和50年から奨励品種に採用され、普及に移された。

栽培上の注意 萌芽数は多いが、冷床の場合萌芽揃いが劣るので、萌芽までの温度を高めた方がよい。生育後期までいもの肥大がみられるので、原料用としては晩掘りが得である。冷涼地帯での晩植、窒素過多、多湿の条件での栽培は避けた方がよい。

命名の由来 南九州でとくに豊産であることを示す。

第1表 収量調査成績

試験地	品 種 名	つる重		でん粉	
		kg	kg	歩留 %	粉重 kg
育成地	ミナミユタカ	435	231	23.7	55
	コガネセンガン	368	271	24.7	67
	農 林 2 号	424	157	22.1	35
宮崎農試	ミナミユタカ	283	491	22.9	112
	コガネセンガン	159	398	24.4	98
	農 林 2 号	223	344	22.1	77
鹿児島農試	ミナミユタカ	354	420	22.1	93
	コガネセンガン	255	353	22.6	80
	農 林 2 号	203	285	21.1	60

注) 育成地は昭44~49, 宮崎は昭47~49, 鹿児島は昭46~49の平均。重量はa当り。